

小説



# 家畜妻

# の歌

あんぷらぐど著

荒縄工房・発行

**試読版 サンプル**

<http://unpluggednovel.blog109.fc2.com/>



なぜ、  
そこまで、  
私を虐めるので  
すか？

この作品はフィクションであり、実在する、人物・地名・  
団体とは一切関係ありません。

## 目次

契約書…………… 5

家畜小屋……………22

飼育員……………36

ルール……………46

証（しるし） ……64

日干し……………82

名前当てゲーム……………119

獣の臭い……………137

奉仕活動……………148

ねじり……167

羞恥……199

足蹴……208

つるし……222

近隣迷惑……247

拡張……279

オモチャ……300

公然家畜……329

朝練習……348

釘付け……374

フィスト……416

自分の姿……	438
引き回し……	459
実験動物……	480
異常性欲……	522
摘出手術……	543
アナル人形……	561
退院祝い……	576
巻末……	614

## 契約書

憧れの大学時代の先輩が偶然にも独身だったことから、わずか二ヵ月ほどで婚約、そして結婚と順調に進みましました。二十七歳で念願の結婚。友だちなどから「いいなあ」と言われ、お祝いしてもらい、舞い上がっていたものです。

彼は、新婚旅行先のグアムで、私に契約を求めました。一枚の紙を私は受け取りました。指先が震えました。

「おまえさ、大学の頃から、こういうの好きだったよな」

口調も、それまでの優しい彼ではありません。

もちろん、忘れるはずはないのです。

大学で同じサークル。そして彼は、私に酒を飲ませて、強引に処女を奪ったのです。ひどい話ですが、最初こそ憤ったものの、しだいに私には、それも喜びなのだと解釈するようになっていきました。

縛られたり、オモチャを使われたり、深夜の公園などで恥ずかしいことをされたこともあります。大学時代、私は彼の四番目か五番目の女だったので、なんとか関係を切られないように、必死で耐えていたのです。

ただ、社会人になってしまうと、まるで魔法が解けたように、「あれは学生時代のこと」と割り切り、彼と連絡を取ることも止めていました。悪い夢を見たのだ、あんなことは普通ではないのだ、と。

あるとき呼び出されて「結婚しないか」と言われて、私は有頂天になりました。悪夢のような出来事のこと、どこかに置いてきて、「彼」という存在だけしか見えなくなっていました。

なにしろ「結婚」なのです。これから一生、彼と過ごすことができるなら、学生時代の悪夢も、そのための努力のひとつとして笑い話にできるかもしれません。

彼と結婚できたなら、私の人生は明るく、楽しく、最高にハッピーなもの



になるでしょう。少なくとも、お金のことで苦勞することはないはずです。

結婚すれば、彼は家庭を持つのですから、まっとうな生活をするのが基本になるでしょう。よき夫、よき父となる人だと、私は期待していました。

私もそれにふさわしい妻になろう、と決意しました。料理でも家事でも育児でも完璧にやってみせよう。ご両親、親戚、近所付き合いも、そつなくこなそう。

そんな風に夢を描いていました。

でも、少し考えれば、それが間違いだとはわかったはずですよ。いえ、わかっていたのです。きっとひどいことになる、と。

それでも、彼の言うままに話を進めました。

「いい人ね」と親などにも言われて、友人たちも「まさか」と驚かれて、得意になっていた自分もいました。

豪華な結婚式をすっかり終えて、新婚旅行。

高級リゾート地の予定でしたが、彼の仕事の都合で日程が難しく、グアムになってしまったのですが、それでも私は素敵な時間を過ごせていたのです。

新妻として彼と腕を組み、海に入り、食事をし、ごく普通のセックスもしました。いえ、普通どころか、学生時代から憧れていた彼と二人だけのロマンティックな夜を、絵に描いたように実現できたのです。

このまま幸せな、ごく普通の家庭が

永遠に続くと思っていました。

明日は日本に帰るという最後の夜。

ホテルで紙を突きつけられて「これにサインするか、成田離婚か。どっちがいい？」と言うのです。

その紙片にはこう印刷されていました。

## 家畜妻契約書

私、●●恵美は、この契約書にサインをした日より永遠に、所有者である○○○○様の家畜妻となることを誓います。家畜妻として、どのような扱いを受けても○○○○様に逆らったり、訴えることはいたしません。すべて私、●●恵美が望んでしていることですので、一切の責任は私、●●恵美にあります。なお、本契約書における家畜妻とは下記にあげた事項を忠実に喜んで実行する者のことで

す。

## 記

- 1、家畜妻は、家畜以下の存在である。  
したがって家畜以下の扱いを受けることを自ら望みます。
- 2、家畜妻は、全身を所有者に捧げるものであり、髪の毛一本に至るまで、所有者の求めるままに供することを自ら望みます。
- 3、家畜妻は、対外的には人間の妻のように振る舞うことが求められ、所有者に恥をかかせないことを誓います。

4、家畜妻は、全身のあらゆる部分を使って、所有者を喜ばせることを誓います。

5、家畜妻は、自らの肉体を傷つけ、または第三者などによって改造され、失うこともいといません。

6、家畜妻は、所有者に従うものであり、所有者の変更も含め所有者に従います。

7、家畜妻は、心身を害した場合、所有者によって遺棄されることも受け入れます。その場合も、所有者に対して一切の金銭的な見返り、損害賠償などを求めません。

8、上記以外に、私自身が家畜妻として必要とみなしたあらゆることをいたしますが、それもすべて私自身の責任であり、所有者ならびに他者の責任ではありません。

9、本契約は家畜妻の署名、押印、陰部拓をもって即刻履行されるものとし、家畜妻存命の間有効となります。

2012年〇月〇日

家畜妻    〇〇恵美            署名・押印

陰部拓



私はそれを読み、震えました。

「どうするんだ？ あれだけの結婚式をしたけど、もうお別れかな？ それとも一生、家畜妻になるかな？ どっちがいいんだ？」

断るのが一番いいのです。いくらなんでも、それではひどすぎます。もう一度、最初から読み直しました。これは、私の人間としての一切を否定することになります。大学時代よりもひどい扱いです。

「まあ、成田に着くまでには返事をし

てよ」

一晩、ゆっくり考えました。結論は決まっています。「拒否」です。

あっという間に朝が来ました。一晩、彼は私に指一本触れませんでした。

これで拒否して日本に帰れば、そこでお別れです。家族や友人に、なにがあったのか本当のことは言えません。言ったところで信じてもくれないでしょう。

これは運命なのかもしれません。このまま終わることは、あってはならな

いのです。

私は朝日を眺めながら、決意しました。

黙って、書類に署名して押印したのです。

「決めたんだな」

彼は私を抱きしめてくれました。

「最高の決断だよ。君なら受けてくれると思ったんだ。きっと毎日、退屈しないよ」

「よろしく、お願いします」と、私は気丈に言うつもりでしたが、声が震え

ていました。

「どれ」と彼は、私のスカートの中に手を入れてきました。

「なるほど。もう、感じているのか？おまえ、こういうの大好きなものな」

彼はこのために用意したらしい墨を私の下腹部に塗って、それに契約書を押しつけました。

「まん拓ってやつだ。いい記念になるぞ」

私が家畜妻になることを彼が望む

なら、そうすることで、普通の夫婦ではけっして得られないほど、強い絆で結ばれることになる。きっと、そうなる、と信じていました。

でも、それもまた甘い夢でした。

## 家畜小屋

帰国したとき、成田空港からリムジンバスに乗った瞬間、私は現実には直面しました。

私は、新婚旅行で持って行った服を、ほとんどグアムで捨てました。そして入国審査が終わるとトイレに入り、最後に着ていたまともな服と下着も捨てました。

ですから、いま、着ることができるのは、春とはいえまだ寒い日本には不

似合いなものしかありません。

腿の付け根までしかないマイクロミニ。剥き出しの足は鳥肌が立っています。そして下着なしで着ているTシャツ。固くなっている乳首がはっきり見えてしまうのです。いろいろな人にジロジロと見られ、眉をひそめたり、笑われました。

タクシーで帰ることもできたのに、彼はわざとリムジンバスにしたのです。夕暮れが迫る都心に戻ると、電車

を乗り継いで新居であるマンションまで行くのです。家畜ですので、荷物はすべて私が運びます。二つのスーツケースと二つのショルダーバッグです。

マンションは、婚約してから購入したので、私にとっても我が家のようなものです。恥ずかしいかっこうはしていても、自宅に着けばホッとします。

荷物を置くと、ソファーに座って、寒さと緊張で固くなった体をほぐし



ます。

「なにやってるんだ」

「すみません」

私は立ち上がって、謝ります。

「おまえ、まさか、ここに住むつもり  
じゃないよな？」

「え？」

「家畜なんだから、家畜の小屋に住み  
たいだろ？」

彼は、鍵を私に投げてよこします。  
古めかしい鍵には「4」という番号の

ついたプラスチックの札がついてい  
ます。

「来いよ」

私は着替えることも許されず、その  
ままのかっこうで再びマンションの  
外に連れ出されました。

裏手に、まだこんなところが残って  
いたのかと驚くほど古びた二階建て  
のアパートがあります。彼は顎でそこ  
を示すのです。

高級マンションの目と鼻の先。でも、

まるで違う世界がそこにはあります。

「必要なものはもう運んである」と彼は言います。

一階に四部屋。二階に四部屋。洗濯機が外に出ています。「4」と書かれた部屋があります。郵便受けを見て驚きました。「家畜妻恵美」という紙が張られています。小さな文字で、落書きのように書いてあるのです。

「間違いないだろ、こうしておけば」

寒さだけではなく、震えながら渡さ

れた鍵をドアノブに差します。いまだ  
きシリンダー式で、ドアはベニア。し  
かも外側が剥がれかけています。鍵な  
どあってないようなものでしょう。

二十代の女が住むには、あまりにも  
セキュリティがなさすぎます。

開けると、中は真っ白な世界でした。  
外と同じぐらい明るいのです。狭い玄  
関で靴を脱ぐと、傷だらけの、じとっ  
とした板の間があります。部屋は六畳  
もないほどでしょう。畳のあるべきと

ころはベニア板が敷き詰められ、その上から分厚い透明のビニールシートが貼られています。工事中のようです。

天井や柱にLEDライトが取り付けられ、自分の影が出ないほど、中は明るくされています。

「電気のスイッチはない。太陽光発電も使って二十四時間、この明るさだ。監視用に何台かカメラがある。隠れる場所はない」

唇が震え、涙がにじんできます。こんな屈辱はありません。

流し台が置かれていたはずの場所、入ってすぐ右のところは、蛇口こそありますが、青いホースが蛇口に巻き付いています。

そして床が抜かれて、畳一畳ほどのスペースにコンクリートが流し込まれ、大きな排水口が作られています。水回りはそれだけです。

右手にトイレがあるように見えますが、そのドアは板で打ち付けられて壁になっています。

その隣は押し入れで、襖はありません。下の段に、薄汚れた布団が敷かれています。

上の段には、まがまがしい器具がぎっしり並んでいます。男性の形をしたものが何本もある、とわかっただけで、直視できません。

「裸になれ」

マイクロミニとTシャツを脱ぐと、下着は許されていませんので、もう全裸です。

大型犬用の首輪を、彼が私につけます。長い鎖がついています。

「ここでは、これが普通のかっこうだ」

「もし人が来たら……」

「おまえが家畜妻であることを、はっきり示す必要がある。これは許されたときだけ、着るんだ」

履いてきたサンダルと脱いだ服を、コンビニの袋に押し込み、押し入れの奥に、彼は投げました。



「これからのおまえには、プライバシーはない。どうだ。もう止めるか？  
契約を破棄するか？」

私はガタガタ震えていましたが、  
「いえ」と口走っていました。

流し台の上にあったであろう場所  
にある窓は内側からベニアでふさが  
れ、奥の窓も同じく、ふさがれていま  
す。

彼は唯一の窓である庭側のサッシ  
を開けました。サッシにあるはずの、  
くるりと回す鍵も取り外されていま

す。さっと冷たい風が入ってきました。  
古い網戸がついています。

小さな庭。向かい側の別のマンションとの間に、ブロック塀があります。地面は泥と石ころ。じめっとした感じがあります。

「お、お隣は？」

人がいるのだろうか、と思いました。  
ここはほとんど廃屋のようだからです。

「そうだな。いいことに気付いたな。」

「近所に挨拶に行きたいんだね」

「ええ！」

まさかとは思いますが、私は絶望的な気持ちになっていました。もう戻ることはできそうにありません。

※ブログ掲載時はここで終了しましたが、本編はまだ続きます。

## オモチャ

朝が来ました。

一睡もできませんでした。

支柱に取り付けられた太いディルドで直腸を貫かれたまま、一晩を過ごさせられたのですから。

飼育員たちがやってきて、私をそこから降ろしてくれましたが、しばらくは体が動きませんでした。

「大したもんだぜ、ケツの穴、開きっぱなしだ」

「おお、でっかくなっただな」

「もう浣腸なんてできないんじゃないかねえか？」

「大丈夫だよ、その機械なら浣腸もできる」

ゴムを膨らませてお尻の拡張をする装置は、中に管が入っていて、浣腸液を入れることができます。

洗面器の食事をしたあとに、さっそくそれを試されます。まず拡張器を入れます。ポンプでゴムを膨らませます。

「本当だ。昨日よりずっと太くなった

ぜ」

そして器具から出ている管の先にいつものガラス浣腸器をつけて、浣腸をするのです。

「今日から三十分にしような」

猿ぐつわを彼らは外してくれませんが、私はなにも言えずに、されるがままです。

いつも十五分で排泄していましたが、三十分はさすがにきつく、もだえ苦しみながら、ようやく耐えて排泄を許されました。

お読みいただきありがとうございました。

## SM小説ブログ「荒縄工房」

刊行作品情報は[DLsite](#)のページへ

「荒縄工房」のプロフィール

サークル名	荒縄工房
フリガナ	アラナワコウボウ
ホームページ	<a href="#">ホームページ</a> <a href="#">DLsite blogへ</a>
Maniax 販売作品数	4作品

アフィリエイトリンクの作成： [ユーザー用](#) | [サークル用](#)

販売作品一覧

最新の30作品 | 2011年

	<b>小説『十二両』第一部</b> 荒縄工房 525円/ポイント3%	販売日: 2011年12月4日	<a href="#">カートに入れる</a> <a href="#">お気に入り</a>
	<b>小説『壁ちる』Part2 シークレオバージョン</b> 荒縄工房 630円/ポイント3%	販売日: 2011年11月26日	<a href="#">カートに入れる</a> <a href="#">お気に入り</a>
	<b>小説『壁ちる』特別編</b> 荒縄工房 630円/ポイント3%	販売日: 2011年11月09日	<a href="#">カートに入れる</a> <a href="#">お気に入り</a>
	<b>小説『重由美』第一部</b> 荒縄工房 420円/ポイント3%	販売日: 2011年10月4日	<a href="#">カートに入れる</a> <a href="#">お気に入り</a>